

目次

はじめに

①「ビキニ事件」と原水爆禁止運動のひろがり

「コラム」核問題の危機」とは

―核実験場とされたマーシャル諸島からの声

②「ビキニ事件」と高校生の原水爆禁止運動

「コラム」わだつみ会と高校生の平和活動

「コラム」真実と平和な世界を求めて

―北海道深川西高校「あゆみ会事件」―

③①原水爆禁止を！高校生も声をあげた

ビキニ事件と静岡の中学生・高校生

「コラム」平和の使者「愛吉すずのぼら」ファミリー

②「平和への祈り」異聞

―映画「ゴジラ」と生徒会の

原水爆署名運動との関わり―

③高校新聞にみる東京の高校生たちの

原水爆禁止運動

④第一回原水爆禁止世界大会に参加した高校生

―原水爆禁止世界大会木一高準備会の活動―

⑤関西の高校生たちの原水爆禁止運動
「コラム」沖縄におけるビキニ事件と
原水爆禁止運動

④成城学校の高校生たち

―映画「無限の瞳」製作と上映のひろがり

⑤第五福竜丸に集う高校生たち

⑥ビキニ事件を足元から世界へ発信する

高知の高校生たち

⑦被爆者援護法の制定を求めた高校生の

六・九行動

⑧日本政府は核兵器禁止条約に署名・批准を！

高校生は学び行動する

「コラム」学び行動する東京学生平和ゼミナール

「コラム」高校生平和大使と高校生一万人署名活動

「コラム」被爆者から若い世代のみなさんへ

資料

参考・引用文献

おわりに

執筆者一覧

はじめに いま問われているもの

「ビキニ事件」は、静岡の漁船・第五福竜丸の被災に端を発する事件ではあるが、決して第五福竜丸だけの事件ではなかった。生活と食の安全を脅かし、核保有国による核開発競争が「次なる戦争」を引き起すという不安に人びとがおそわれた事件だった。このことは若い世代をも刺激し、「あの戦争」が終わって九年足らずで、平和を再び壊してはならじと、原水爆禁止署名の取り組みへと駆り立てた。被災者の苦しみはいまなお続いている。

本書は、これまであまり語られてこなかった、高校生たちの動きに注目し、各地で活動する教員や研究者らが手分けして調査をすすめたものである。一九五四年に盛り上がった原水爆禁止Ⅱ核兵器反対の機運は、この年にとどまらず高校生たちを突き動かした。また、一九六七年に廃船処分され、あわや解体の危機にあった第五福竜丸の船体を保存する運動にもつながっていった。

熱い思いは、先輩から後輩へ、地域から地域へと静かに広がり、つながりつづけ、現在の高校生たちの活動に、確実に手渡されている。

広島・長崎の原爆被害から八〇年。被害者は高齢となり、「あの日」を記憶する被爆者は多くはない。しかし、平和への思いを繋いでいくのは、被爆者Ⅱ当事者だけではないことを、高校生の活動が示している。本書に登場する高校生たちは、そうした活動のごく一部にすぎない。

ここから、新たな史実の掘り起こしや新たな活動の芽吹きがあることを願ってやまない。

二〇二五年七月

編者一同